



最近、息子から「鉛筆はどうやってあの小さいところに芯を入れるの。鉛筆の芯は、書いている時に折れることもあるのに、木の中に入れる時には、折れないのかな？」と尋ねられた。生活していると、このような素朴な疑問が起きるものである。

鉛筆の芯は、石墨（graphite）の粉末と粘土と水を練り合わせたものを、金属製の細い管から押し出しスパゲティのような長いひも状にする。それを乾燥させて切断し、窯に入れて焼成した後、熱した油と蠟の中をくぐらせると、細い芯ができる。次に、削りやすい杉などを軸木として、鉛筆の半分の厚さの板にカットし、何本もの細い溝を付ける。それから、その溝に芯を置き、もう1枚の板を接着剤と一緒にプレスする。これを1本ごとに切り離して、形を整え、塗装し、商標などを刻印すると、鉛筆のできあがりである。